

令和2年度学校運営協議会のまとめ

1 学校運営協議会の成果

学校園、家庭、地域の連携が一層深まり、地域総がかりの教育を実現するための取組の充実が進んでいます

具体的な取組

- ・地域の様々な人の協力を得て、地域一斉あいさつ運動などを行うことができた。
- ・学校園支援ボランティアを新たに募集し、活動の充実を図った。
- ・コロナ禍にある学校での行事について、具体的な意見をいただき、密を避けて行事をもつことができた。
- ・生徒指導面での情報交換により、生徒への声かけが増え、問題行動が減少した。
- ・学校運営協議会委員の助言により、児童の心のケアを目的とした心理学講座・ライブを開催した。
- ・学校だよりやホームページ、メール配信等を活用した、家庭・地域への情報共有が進んだ。

2 学校運営協議会の運営の工夫

コロナ禍においても幅広い意見をより多く集約できるよう、各学校運営協議会において様々な工夫が行われました

具体的な工夫

- ・当日の協議予定の議題について前もって委員に資料を配付し、地域や関係団体の意見等を集めていただくことで、話し合いがスムーズに進むようにした。
- ・校区の学校運営協議会で重複して委嘱する可能性のある委員の負担が減るように、また、情報共有のバランスが保てるように、各校園の担当を誰にするかを地域の方とともに検討した。
- ・コロナ対策も兼ねて、オープンスクールの期間を5日間に伸ばして開催し、学校運営協議会委員も参観しやすいように工夫した。
- ・学校だよりやホームページ、メール配信等を活用し、学校運営協議会の委員へ学校や子どもたちの様子について情報提供を図ることで、課題について話しやすいように工夫した。

3 課題について

今後のさらなる充実に向けて、一層の情報発信やコーディネート機能の強化、PDCA サイクルの活性化、協働が生まれる仕組みづくり等が求められています

- ・学校運営協議会の設置の意義や取組内容を情報発信するとともに、委員だけでなく、様々な方からの幅広いアイデアの獲得が必要である。
- ・地域ができることと学校が希望することを調整する、コーディネート機能の強化が必要である。
- ・学校運営協議会の話し合いから得た成果や課題を、次年度の学校運営方針や教育活動の改善につなげていく PDCA サイクルのさらなる活性化が必要である。
- ・学校園支援ボランティアの活動のさらなる充実をめざして、協働が自然にうまれる仕組みづくりが必要である。